

Topics

トピックス

歴史博物館注目のニュースをご紹介します!



©カラー

2018 6/8(金)~7/22(日) エヴァンゲリオンと日本刀展

一刀匠たちが挑んだエヴァンゲリオンの世界—

「エヴァンゲリオンと日本刀展」が始まったころ、「今、博物館で刀剣の展覧会やってるんだってね。」といういろいろな方に言われました。連日テレビで放映されていたCMや新聞、SNS等の影響もあり、いつも以上に反響があったように思います。この展覧会は、「日本刀」と「エヴァンゲリオン新劇場版」とのコラボレーション企画で、現代の刀工がアニメのキャラクターのイメージで作った刀剣を展示するものです。展示作品は現代に作られた新しい日本刀ですが、土日にはプレートへの銘切の実演が行われるなど、日本の伝統技術にふれるコーナーも設けられていました。当館主催の企画ではありませんが、もともと日本刀に関心があった方にも、これまで関心なかった方にも親しんでいただける機会となりました。

次回展覧会のお知らせ

Upcoming Exhibition

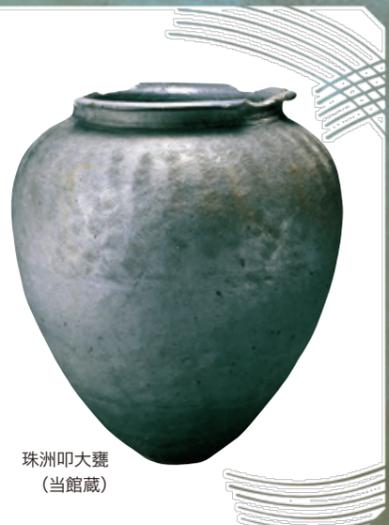
企画展 いしかわ中世のやきもの

2018 12/15(土)~2019 1/20(日) ※12月28日~1月3日は休館

中世に生産されていた代表的な陶器として、石川県では珠洲焼が挙げられます。能登半島の先端で生産された珠洲焼は日本海を通じて広く流通し、北陸から北海道にいたる各地で出土例が確認されています。

しかし現在の石川県で中世に生産されたのは珠洲焼ではありません。加賀では加賀焼の製品が流通していたほか、近年では能登地方でも、加賀焼の窯場から転出した工人が生産を行っていたとみられる窯跡群が発見されています。このように、中世の加賀・能登においては複数の窯が操業しながら、各地の陶器の需要を満たしていました。

本展では館蔵の珠洲焼に加え、加賀焼をはじめとする県内のその他の窯の製品を紹介し、中世における加賀・能登の陶器生産に迫ります。



珠洲叩大甕 (当館蔵)

広告

フレッツ光で賢くインターネットを始めませんか?

- ✔引越しの予定がある
- ✔CSTVに興味がある
- ✔インターネットの料金が安い
- ✔インターネットの速度が気になる

※「フレッツ光」とは、「フレッツ光ライト」、「フレッツ光ネクスト」および「Bフレッツ」(いずれもインターネット接続サービス)の総称です。
 ※NTT西日本の設備状況などによりサービスのご利用をお待ちいただく場合や、ご利用いただけない場合がございます。
 ※インターネットのご利用には、フレッツ光の契約に加え、別途プロバイダとの契約が必要です。(別途月額利用料等がかかります。)

詳しい内容 お問い合わせ
 受付時間/9:00~21:00(年末年始を除く)
 NTT西日本販売代理店株式会社エイエス・コミュニケーションズ

0120-949-388



いしかわ赤レンガミュージアム
石川県立歴史博物館
ISHIKAWA PREFECTURAL MUSEUM OF HISTORY

〒920-0963 石川県金沢市出羽町3-1
TEL:076-262-3236 FAX:076-262-1836
E-mail:rekihaku@pref.ishikawa.lg.jp
http://ishikawa-rekihaku.jp/



石川

ISHIKAWA PREFECTURAL MUSEUM OF HISTORY

れきはく

No.127
2018.9.5



紫織子地鯉瀧登り文様打掛
梅若演劇衣裳店蔵【後期展示】

平成30年度 秋季特別展 歌舞伎衣裳 綺羅をまとう

前期 9/22(土)~10/14(日) 後期 10/16(火)~11/11(日) 前期・後期で大幅な展示替えを行います
※詳細は当館ホームページ等をご覧ください

平成30年度 秋季特別展

歌舞伎衣裳

綺羅をまとう

“Kira” Amazing Costumes of Kabuki

前期 9/22(土)~10/14(日) 後期 10/16(火)~11/11(日)

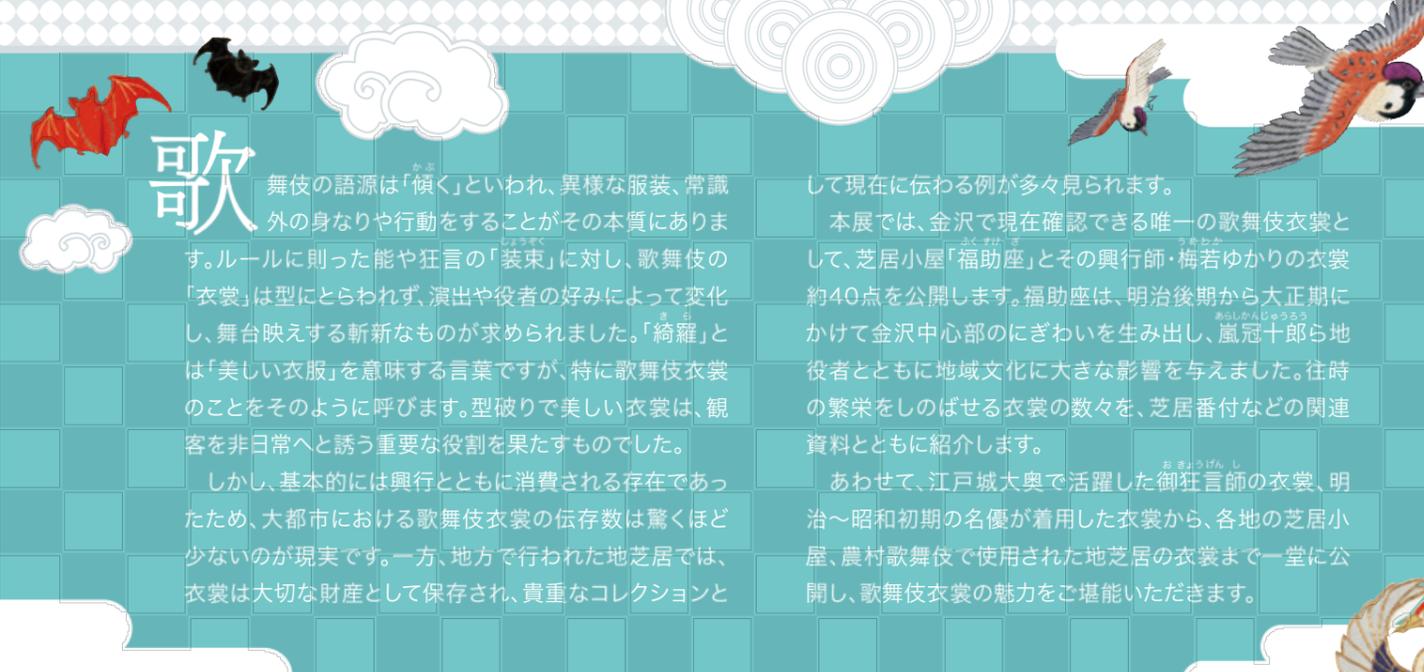
前期・後期で大幅な展示替えを行います ※10月15日(月)は展示替えのため閉室(常設展およびフリーゾーンはオープン)

観覧料 一般800(640)円 大学生640(510)円 高校生以下無料

※()は20名以上の団体料金/65歳以上の方は団体料金

【リピーター割引】前期の有料チケット半券を後期にお持ちいただくと200円割引

……… 詳細は当館ホームページをご覧ください ……



歌

舞伎の語源は「傾く」といわれ、異様な服装、常識外の身なりや行動をすることがその本質にあります。ルールに則った能や狂言の「装束」に対し、歌舞伎の「衣裳」は型にとらわれず、演出や役者の好みによって変化し、舞台映える斬新なものが求められました。「綺羅」とは「美しい衣服」を意味する言葉ですが、特に歌舞伎衣裳のことをそのように呼びます。型破りで美しい衣裳は、観客を非日常へと誘う重要な役割を果たすものでした。

しかし、基本的には興行とともに消費される存在であったため、大都市における歌舞伎衣裳の伝存数は驚くほど少ないのが現実です。一方、地方で行われた地芝居では、衣裳は大切な財産として保存され、貴重なコレクションと

して現在に伝わる例が多々見られます。

本展では、金沢で現在確認できる唯一の歌舞伎衣裳として、芝居小屋「福助座」とその興行師・梅若ゆかりの衣裳約40点を公開します。福助座は、明治後期から大正期にかけて金沢中心部ににぎわいを生み出し、嵐冠十郎ら地役者とともに地域文化に大きな影響を与えました。往時の繁栄をしのばせる衣裳の数々を、芝居番付などの関連資料とともに紹介します。

あわせて、江戸城大奥で活躍した御狂言師の衣裳、明治～昭和初期の名優が着用した衣裳から、各地の芝居小屋、農村歌舞伎で使用された地芝居の衣裳まで一堂に公開し、歌舞伎衣裳の魅力をご堪能いただきます。



◆ 序章 ◆

大奥の御狂言師

男性役者が足を踏み入れることのできない大奥や、大名家の奥向きで活躍した御狂言師(女性役者)の坂東三津江が着用した衣裳を紹介し、三津江は三代目坂東三津五郎の門人で、加賀藩前田家のお抱えだったとも言われます。着用者が明確な、江戸時代までさかのぼる衣裳はごく少なく、当時の歌舞伎衣裳の様相をうかがう上で非常に貴重です。特に萌黄縞子地的矢文様羽織・萌黄縞子地着付は、的矢を背中に大胆に表した意匠が特徴で、市井にも通じる感覚と言えるでしょう。

◆ 第I章 ◆

明治から昭和 名優の衣裳

興行とともに消費される運命にあった歌舞伎衣裳は、実物でその歴史をたどることは非常に難しいと言えます。しかし明治時代以降、特に大正時代から昭和時代初期にかけて、名優と謳われた歌舞伎役者たちが袖を通した衣裳は、少数ながら現在に伝えられています。中には、役者と衣裳の関係を垣間見せるものがあり、歌舞伎衣裳の変遷を考える際、大きな示唆を与えてくれます。

◆ 第II章 ◆

地芝居と衣裳

地芝居とは、京、大坂、江戸の三都の歌舞伎に対し、地方で行われた歌舞伎、特に素人による村芝居を指します。地芝居が全国的に盛んになるのは18世紀後半から19世紀初め、各地で禁制をかいくり上演が行われました。農村部では特に時代物が好まれましたが、その理由の一つとして、豪華な衣裳を着用できたことが挙げられます。ここでは、江戸歌舞伎の衣裳を買い取った横室(群馬県)、衣裳屋が活躍した美濃(岐阜県)、个性的で豪華絢爛な衣裳がのこる但馬(兵庫県)など、衣裳を通して地域における地芝居の様子をさぐります。

◆ 第III章 ◆

梅若の衣裳と福助座

金沢市にある梅若演劇衣裳店は、歌舞伎をはじめ演劇の衣裳を専門に扱う県内唯一の貸衣裳店です。そのルーツは、明治20年代から大正7年(1918)まで、香林坊大神宮の境内地にあった芝居小屋・福助座にあります。梅若と称した興行師、初代太田七兵衛が、金沢市街中心部に初めて創設した劇場で、これを機に香林坊は金沢一の繁華街に成長しました。ここでは「第III章-1.金沢歌舞伎と福助座」として、芝居番付などでその歴史をたどり、「第III章-2.福助座ゆかりの衣裳」で、刺繍などの技法にすぐれた衣裳の数々を紹介、そして「第III章-3.梅若の貸衣裳」で戦後の地芝居ブームから発展した貸衣裳業に触れます。



前期展示
萌黄縞子地的矢文様羽織・萌黄縞子地着付
坂東三津江着用
東京国立博物館蔵
Image:TNM Image Archives



前期展示
紫地唐花唐草石畳文縞珍直垂
九代目市川團十郎着用
三越伊勢丹蔵



後期展示
藤縞子地枝垂れ桜文様振袖
伝六代目尾上菊五郎着用
日本大学芸術学部蔵



後期展示
紫縞子地地獄文様打掛
兵庫県個人蔵



前期展示
金地鷹に大蛇文様四天
梅若演劇衣裳店蔵



香林坊福助座 古写真 大正5年(1916)
梅若演劇衣裳店蔵

記念講演会 「絵でみる歌舞伎の装い 阿国から助六まで」

申込不要(当日先着順) / 聴講無料

講師:河上 繁樹氏(関西学院大学文学部教授)
日時:10月8日(月・祝)13:30~15:00
会場:ワークショップルーム
定員:100名

ワークショップ 加賀刺繍でマカロンストラップを作ろう 歌舞伎衣裳を彩る刺繍の世界を体験

要事前申込 / 参加費 500円

講師:加賀繡工房 椿 伝統工芸士 穴田 節代氏
日時:10月27日(土)10:30~16:00
会場:ワークショップルーム・特別展会場
定員:20名(中学生以上)
申込締切:10月19日(金)必着(多数の場合は抽選)

申込方法:往復はがきもしくはWEB
往復はがき:希望イベント名、①氏名 ②住所 ③年齢 ④電話番号を明記し、石川県立歴史博物館普及課までお申し込みください。
WEB:当館ホームページへアクセスし、「問い合わせ」ページの「イベント参加申込フォーム」よりお申し込みください。



学芸員コラム

Column

常設展展示替え **よもやま話**

学芸員 岡崎 道子

当館には、期間を区切って開催する特別展・企画展の他に、いつでも見られる常設展があります。この常設展は基本的な展示構成が変わらないので、一度観た後再訪されない方もいらっしゃるかもしれませんが、何も変わっていないように見える常設展ですが、しかしその実、展示内容は変化しています。今回は常設展の展示替えについて、少しご紹介いたします。

当館の常設展は石川県の歴史を包括的に、かつ分かりやすくお伝えする場ですので、時代ごとの基本的な解説や紹介する出来事は一貫しています。それにもかかわらず展示替えを行う理由は、第一は何度見ても楽しんでいただける展示にするためですが、それ以外にも理由があります。私が担当する中世コーナーについて言えば、主に①資料の保存のため、②限られた資料では歴史を説明しきれないため、の2点です。以下、順を追ってご説明します。

まず①の資料の保存について、中世資料と一口に言っても、丈夫な焼き物や古文書、湿度コントロールの必要な金属製品や木製品、展示期間を制限する必要がある絵画など、多種多様です。この中で特に丈夫なのは荘園コーナーにある珠洲焼や堅田館コーナーにある陶磁器類であり、これらは比較的長期間の展示に耐えうる資料です。これに対して最も脆弱なのは絵画資料で、光による退色が懸念されるため、公開日数は2、3ヶ月が限度となります。この様に、資料の保存のためには展示を制限せざるを得ません。展示とは本来資料を傷める行為ですから、保存の観点から言えば点検の時以外はずっと取蔵庫にしまって

▼珠洲焼の展示替え。当館の珠洲焼コレクションの中から、選りすぐりのものを展示しています。



実は常設展でも内容をちょくちょく変更しているんです



巻きがずれると“たけのこ”ができます。慎重に、慎重に...

▲古文書も長期間展示すれば傷むので、都度変えています。

おくのが最適です。しかし資料の公開・活用もまた博物館の重要な使命であるため、両者のバランスをとる必要があります。中世コーナーでいうと、時折書籍に掲載される「顕如画像」は、武装した顕如を描いた象徴的な資料で、中世コーナーの目玉の一つです。できることなら365日公開したいのですが、資料保存のため2、3ヶ月で展示替えを行います。展示替えの目的の一つは、この様に貴重な資料の劣化を抑え、長く公開するためです。

次に②の限られた資料では解説しきれない、という理由ですが、これは展示スペースと関わってきます。中世という時代はおおよそ450年続きました。この膨大な期間に起こった出来事を歴史として意味付け、遺された資料を展示するのが常設展の役割なのですが、限られたスペースの中で展示すると、どうしても抜け落ちてしまう資料が出てきます。例えば信仰コーナーでは、県内でも特に有力であった白山信仰や石動山信仰については常に展示で表現していますが、それ以外の地域ごとの信仰の遺物については、その全てを一度に展示することができません。また、先に挙げた有力な信仰であっても、関連資料の全てを展示することは困難です。こうした問題を解決するため、定期的に資料を入れ替え、できるだけたくさんの資料をご紹介して、石川で育まれた信仰世界の深みを感じていただける様にしています。

特別展の影に隠れて目立たない常設展ですが、再訪される方も楽しめる展示になる様、日々工夫しています。ご来館の折には、ぜひ常設展示室にも足をお運びください。



教育プログラム

Educational Program

楽しく学べる企画をご用意しています!

夏季特別展関連イベント 自分だけのカラフル土偶をつくろう

当館では、特別展ごとに、展覧会の内容に関連したワークショップを企画・開催しています。今回は夏季特別展「発掘された日本列島2018」の関連企画「自分だけのカラフル土偶をつくろう」の模様をお伝えします。今回のワークショップは素焼きの土偶に絵の具を使って着色していくというもので、完成した作品はマグネットやブローチとして持ち帰ることができます。土偶は実際に展示されている出土品を基に、イラストレーターのスオアキコさんがデザインをしたものです。

ワークショップは、まず色付けの順序や絵の具の扱い方の簡単な説明をした後に色付けに入ります。原色を使い分けてカラフルに塗る人もいる一方で、実際に出土した土偶のように茶系の色を細かく使い分けて土器の質感を再現する人もいますなど、参加者によってさまざまな「カラフルさ」が見られるワークショップとなりました。中には、マグネットやブローチになったときに見

えなくなる裏面にも細かく色付けをする参加者も見られました。実際に色付けに使われた色ですが、赤や黄などの暖色系の色が比較的多く使われていたようです。土偶の形を見てイメージする色にはある程度傾向があるのでしょうか。土偶の形や参加者の年代ごとに分けて見ていくと何か分かるかもしれません。

土偶は、縄文時代に豊かな生活と新たな生命の誕生を願うための祭具としてつくられたとみられています。色付けに参加した子どもからは、こうした土偶の目的を知ってか知らずか「これは儀式に使うさうだね」といった感想も聞かれました。縄文時代の彩色といえば、赤や黒の彩漆が知られていますが、当時着色に使えた色は非常に限られていたと思われます。当時の縄文人に絵の具を渡したなら、一体どんなカラフルな土偶が出来上がるのでしょうか。

(学芸員 野村 将之)



どんな色にしようかな

◀「自分だけのカラフル土偶をつくろう」制作風景(2018.8.5)



◀作品の一例(2018.8.5)



催し物案内

Information

展示解説や各種講座などの情報をお知らせします。(各種催し物の詳細については、当館ホームページにてお知らせします。)

10月

20日 **れきはくゼミナール**
(土) テーマ「福助座と梅若の歌舞伎衣裳」
講師：大井 理恵(学芸主任)

26日 **学芸員によるワンポイント解説**
(金) テーマ「古代いしかわの渡来文化」
講師：三浦 俊明(学芸主査)

12月

15日 **れきはくゼミナール**
(土) テーマ「未定」
講師：野村 将之(学芸員)

21日 **学芸員によるワンポイント解説**
(金) テーマ「神饌の色とかたち」
講師：大井 理恵(学芸主任)

11月

休館日
11/12(月)・11/13(火)

17日 **れきはくゼミナール**
(土) テーマ「神と仏のものがたり
—高爪山の信仰を中心にして—」
講師：戸潤 幹夫(学芸主幹)

23日 **学芸員によるワンポイント解説**
(金) テーマ「『畠山義経画像』と畠山文化」
講師：北 春千代(学芸主幹)

1月

休館日
1/1(火)~1/3(木)、1/31(木)

19日 **れきはくゼミナール**
(土) テーマ「初代県令・内田政風」
講師：石田 健(学芸主任)

25日 **学芸員によるワンポイント解説**
(金) テーマ「縄文の海のなりわい」
講師：野村 将之(学芸員)

学芸員によるワンポイント解説 全11回

要受講料/申し込み不要 時間 13:30~14:00 場所 展示室
毎月1回、金曜日に実施している展示解説。当館の学芸員が博物館のみどころを紹介いたします。

れきはくゼミナール 全11回

受講無料/申し込み不要 時間 13:30~15:00 場所 ワークショップルーム
毎月1回、土曜日に実施している博物館講座。当館の学芸員が独自のテーマを設定し講義します。(3月は月2回)

古文書講座 前期4回・後期3回

受講無料/要申し込み 時間 13:30~15:00 場所 ワークショップルーム
当館の学芸員が古文書の読み方や内容を解説します。
※前期分の申し込みは終了しました。後期分は12月1日から募集します。

いしかわ県民大学校歴史講座 全10回

要受講料/要申し込み 時間 11月~1月の水曜日13:30~15:30
申し込み手続きは10月1日から
(電話ではお申し込みいただけません)